

オーレロ通信



59号

2009 から 2010 へ GO

編集後記

最近・・・寒い。とにかく寒い。もう冬眠したいくらい。
前回のオーレロを出した後は、関西フリースクール間でボーリング大会や卓球大会、文化祭があり、何日も前から練習してきたバンド演奏の発表や、ほかのフリースクールの生徒たちとの交流を楽しみました。
初参加だった予午線ウォークでは、途中もう車に乗ってリタイアしたい！という気持ちを感じた（あれ、全然隠せてなかった？）最近の若い奴は体力ねえなあという、スタッフ、OBの無言の圧力をビシビシ感じながら歩きましたけれども、もちつき大会では、つくしたてのお餅でお雑煮を食べたり・・・。
猛威をふるったインフルエンザは、私たちを素通りして行ってくれて皆

ホツとし。
この1年、神戸自由学院を温かく見守って下さり、ご支援いただいた皆さま、ありがとうございます。

＊結局、年末までにオーレロを出そうという計画は失敗に終わり、新年号になってしまいました。

笑
というわけで、明けましておめでとうございませう。

髪の毛を切って男の子みたいになってしまったので、今年の目標は髪を伸ばすこと。

2010年もよろしくお願いたします☆

ちこと

震災から早くも15年「生きてきた期間が長くなるにつれ1年が短く感じる」この言葉は本当なんだなと改めて感じる今日この頃です。
「あれ、こないだ新年会



しなかった？」なんてボケている場合ではないのかもしれない。
去年は「新型インフルエンザ」「高速道路ETC割引」「政権交代」など、なにかと話題の尽きない年でした。
国会の答弁で外国人参政権の問題を聞いたдалされた総理大臣が「宇宙ができて、137億年。そして地球ができて46億年たっているわけです。」と切り出したり。
皆さんはどんな2009年でしたか？
僕の2009年は変化の年でした。
今年はどんな年になるのでしょうか。
期待を膨らませつつお餅を食べるお正月です。

けんた

カンパありがとうございました！

上田さん・堀江さん・松下さん・鈴木さん・屋苜さん・田中(あ)さん・田中(清)さん
四本さん・平手さん・坂口さん・篠藤さん・六甲地球クラブ安藤さん・岩本さん・登尾さん
関口さん・シェリーさん・久恒さん・森貴さん・大林さん

随時カンパを受付けています。 郵便振込み 01120-9-81163 神戸フリースクール

兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10
078-360-0016
<http://kfs.freeshool.jp/>
<http://kfa.freeshool.jp/>
kfs2008@live.jp

KOBE FREE SCHOOL
神戸自由学院

＊オーレロ通信の一部、または全文の無断転載を禁止します。

震災から15年

田辺克之



明石市でフリースクールを開設したのは、1990年です。ところが5年後の1995年、あの阪神大震災で、自宅もフリースクールの教室も全壊し、通っていた生徒も自宅が全壊・半壊して、避難所や仮設住宅に移り、壊滅的な打撃を受けました。心のどこかに「これが潮時か」という思いがありました。しかし、壊れた教室に不登校の相談電話は鳴り響き、フリースクールの灯が消えるというニュースを聞いた全国の心ある方々から、励ましの声が届きました。その中に「冬夏舎の灯を消したら、子どもたちはどこへ行けばいいのですか」という封筒が届いたのです。そして封筒の中に「カンパ5000円」も納められていまし

た。差出人は「短足おじさん」と書かれていました。この短足さんは、それから5年間毎月欠かさず「5000円」を送り続けてくれました。またなけなしのお小遣いを寄付してくれた青年もいました。こんなに子どもの居場所を大切に考えている人がいることに驚かされ、心が熱くなりました。何センチか家具の倒れる方向が狂っていたら、死んでいたかもしれない命、いわば「さずかりものの命」だと自覚したとき、ああこれならどんなことにも耐えられるような気になりました。早くも今年は震災から15年を迎え、また神戸フリースクール創立20周年の年です。去年立ち

上げた不登校・高校中退者が高卒資格の取得できる「神戸自由学院」は動き出したばかりです。兵庫県公認の通信高校にするべく手続き申請中です。自由でアットホームな雰囲気有し、子どもが主人公の学び舎をめざして、今年もいろんなことに挑戦していきたいと思えますので、どうぞ引き続きご支援・ご協力よろしく願います。

出会えばわかること

ちくりん

去年十一月に大阪で行われた「ホームレス会議」というものに行ってきました。

今回の内容は、若者のホームレス問題について、ホームレス支援に携わっている人々や当事者たちが語るのを、一般の私たちが聞くというものでした。

当事者として参加していた中で最も若かったのは20代前半の男性。しばらくはビッグイシューを販売することで生活費を稼いでいましたが、現在は違う仕事に就いて頑張っているそうです。

ホームレスの人々・・・私には遠い世界に住んでいる人たちのように思っていました。今から8年ほど前に神戸YWCAの夜回り活動（野宿をしている人たちを訪問する活動）を知り、野々村さんという方にくっついて、入院を余儀なくされている人たちの病院訪問をしていたときがありました。

きっかけは書けば長くなりますが、とにかく、そのときの活動は（短い期間でしたが）私に強烈な印象を与えたものでした。正直、怖い人たちなのではないかと思っていたのです。ところがそうではありませんで

はないし、辛い時に自分の求めるような救いが空から降ってきてくれることはないけれど、それでも、半歩ずつでも歩いてみようとしていけば、時間や周りの大

人や、自分が思ってもみなかった出来事たちが、いつのまにか沢山味方になってくれています。私はこれから頑張ります。

私のパフォーマンスを見



火の山

ターラーさん



てくれた方々に、ぼわっと暖かい気持ちになってもらえるような、そんなクラウンのドレミちゃんになりました。

★パフォーマンスの出演依頼、受け付けます。よろしく願います。

山から火が上がるのを見て／山火事だと人は思った火を消そうと手を尽くしたが／勢いは増すばかり消せるはずがない／それは火山の火／山の産声

何ものも／生まれようとすもの止められない当の山ですら／押しとどめられない山は血を吐いて叫びながら／自分を生む

こんにちは、初めまして、野崎ターラーといひます。長年アトピーに苦しみ、学校には通いましたが、精神的にはずっと、不登校。現在、鍼灸師をしている35歳です。

アトピーも不登校も私にとっては生まれる前の胎動。赤黒くボツボツに膨れ上がった自分の皮膚を、火山になぞらえて上の詩にしました。

私の場合は皮膚に出ましたが、みなそれぞれの「アトピー」があると思います。

それは、何かを突き抜けるときの摩擦やあつれき。ものすごい苦痛を伴うけれど、そこを抜けた先には穏やかな世界がある。

もし「アトピー」に苦しむ人があればぜひ伝えたい。それは生みの苦しみ。この世に「私」が生まれたら、世界はもう一度輝く。以前とは全く違う華やきをもって、

TOEIC

やっしー

今月TOEICがあります。それを受ける予定です。

神戸に来てから、初めての試験になります。

リスニングとライティングあわせて2時間あります。

長いんですけど、問題が200問あるので全然時間が足りなくて、困っているくらいです。

どうして受けることになったかという、実力を試してみたかったというのもあるんですが、やっぱり試験とかあったほうがやる気もあがるし、実用的な英語が身につくと思ったからです。

とにかく初めて受けるのでコツとか色々教わりたいたいです。



師走のお財布

カズ

前回のオーレロが出た後には子午線ウォーク、ライブ、文化祭…などなど色んなイベントがありましたので、非常に記憶に濃い期間でした。

おかげで同時にスケジュール帳がここ何ヶ月か白紙状態だったのに、そこらへんから徐々に埋まりだし。今では飽和状態になっちゃってます。

でもあれですね。スケジュール帳が予定で埋まりだすと、予定をたくさん書くことが目標になっちゃって。過ぎた日のところに「デイト☆」とか書きちゃいますよねー。ウンウン あるある！

ねー。

そんな感じでイベントが多くなると、どうしても多くなるのがお財布の心配です…。この寒

い季節。服も欲しいし、「あったかい」缶コーヒーとか見てるとついつい買っちゃうし（あれ？イベント関係ないか？）。いい加減、空から1億円降ってくる妄想はもうしたくないですね。だからもう、今年の年末は家でゲームして過ごすことにします。ゲームといってもあれですよ。ブックオフとかで安く買ってるRPGあたりを攻めるんです、大体一本につき二週間はつづれます。それをまたブックオフで売り、新しいゲームを買う。。。

新しいゲームを買う。。。

計画立てましょうね。

卒業してからのこと

あやちゃん

大変ご無沙汰しております。

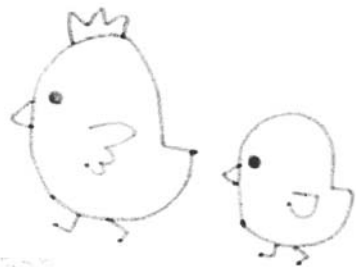
KFSを卒業して約5年、私は20歳になりました。

現在、私はクラウンのパフォーマーとしてお仕事をしています。

クラウンというのは、道化師のこと、ピエロといえど分かりやすいかと思えます。正確にはピエロ・クラウンではないのですが…

16歳で芸事を始めて芝居、日舞、バレエ、ミュージカル、ダンス、ジャグリング、タップ、パントマイム、バルーンアート、それにクラウン。興味のあるものを片っ端から勉強してきました。

急に何かが出来るようになったり、強くなれること



した。それまでの関係が出来ていたこともあったのだとは思いますが、フレンドリーな人たちが多かったのです。とても重みのある活動だと思いました。世の中にはさまざまな境遇や環境にいる人たちがたくさんいるのだ、と学んだことのひとつです。

- 考える種(11)- 大石寿子

私は小さな頃から とても怖がり、小学生になっても、一人で（大家族だったから、めったに無かったけれど）家に居るなんて とても怖くて、外で母の帰りを待ってたりするくらいだった。そんな怖がりのくせに、模図かずおの「へび女」なんか読んで、夜中にうなされ、「怖い漫画なんか読むからやわ！」と母に叱られた事も…。そういう性分は 変わらないままで二十歳を過ぎた頃でさえ、友達の怪談話が嫌で、怖くて泣いて、皆に笑われたばかりか「なにが怖いのか?!ほんとに怖いのは生きてる人間やないの！」とまでいわれた。いったい なにがこわかったのか……。お化けとか 霊とか 想像力豊かなだけに、そんな何かの気配だったのか。さすがに 今 こんな年齢になって 親や親しい人達を亡くしていくと、目に見えないものの気配に怖がるより、かえって 心落ち着くようになった。そして 人の心の内に潜む 悪意の怖さを知ると…。お化けの怖さなどとは 比べようもないことが、やっとわかった！ 20代で、そのことを私に言った友人は、いったい どんな経験をしたのか…。今回は サスペンスといわれる分野の本について…。今 話題の 松本清張の小説は、正統派で 面白いけど 私のオススメは小池真理子の心理サスペンス物。短編は読み出したら もう 止まらないくらい面白い。直木賞を取ってからは、作風が変わってしまったけれど、女の人の微妙な心の動きの表し方は、ほんとに上手い。最近知った作家で 明野照葉の 美しく さりげない女の人の 内に抱える濃くて暗い思いや 異常とも思える行動の描き方も凄い、それこそホラーの世界。自分が 女だから やっぱり女性が主人公で、心の動きが しっかり書き込んであるものは ストーリーに無理がなく、犯人探しのようなサスペンスより、深みがあって面白いと思う。「さえずる舌」は 美しく善意に溢れたような女の人が、秘めた「悪意」をもって、周りの人達の心を 混乱させ弄び それを楽しむという怖いお話です。自分に降り懸かった出来事を思い出し、怖さが倍増しました。「考える種」と 題して 自分の読んだ本にふれながら、いろんな思いを書かせてもらってきましたが、本達を振り返ってみると 楽しく元気がでるような物と 怖くて 読むのがしんどくなるものも 結構読めるものです（以前に取り上げた「永遠の子」とか） そんな 気持ち落ち込んだり 怖くなるような本を読まなければ よさそうなものの、やっぱり 読んでしまうのは それはそれで小説として「面白い」のはもちろん、物事の知らない面を見せてもらい、自分の「考える種」にしているからなのでしょう。というふうに 相変わらず乱読三昧です。

ぼくのしごせん

れつ

「子午線」、正しくは「標準時子午線」は、多くの人にとって「記号」にすぎない。日本の標準時を定める概念上の「線」である。それ以上でもそれ以下でもない。

不確かな線に沿って、各々が多様かつ確実に歩みを積み重ねていく。

友人とのかたらい。

自然とのふれあい。

自己とのたたかい。

その歩みがもたらすものもまた多様かつ確固たるものであろう。

「子午線ウォーク」、それは「記号」に意味を与えていく小さな企てなのかもしれない。

「記号」に意味が与えられた時、それを祝し、仲間と酒を飲む。浴びるほど飲む。

今年は日本酒1本と焼

酎2本が軽く空いた。次の日、二日酔いになる。前日の奇行をいじられる。

それもまた「子午線ウォーク」なのだろう。

おもひでウォーク

オグ

三年ぶり七回目の子午線ウォークを歩きまし

た。普段からウォーキングをしている人からすれば、二日で60km歩くこ

とはたいしたことでは無いと思いますが、近頃め

つきり運動をしていない人間としては少々不安で

した。しかし、あんがい歩けるモノで。すんな

り。むしろこれまで参加した中では一番楽な子午

線ウォークでした。

とりたてて何がどうと言う話でもないですが、

久々に「真剣に歩く」と

きが楽しかった。ただ

だ歩く。写真を撮る。少し話をする。体が痛くなる。お茶をする。時々走る。寒さに凍える。秋空を見る。思い出話をする。暗闇を歩く。ひたすら足を前に進めるとのこと。しんどさもあつたけれど、そのどれもが子午線ウォークでの楽しさでした。

初の子午線ウォーク

北斗

子午線ウォークについて初参加！ 姉から数年前に子午線ウォークに参加した時の話は聞いてはいたので

すが、その過酷さは想像していた以上でした・・・

ボクはビデオ撮影を頼まれていたので、すこし早足

で先回りし立ち止まっ

ては、先頭からみんなの歩いてる姿を撮影して、また

先回りしてと撮っていた

This is it

うらら

昨年6月に急逝したマイケル・ジャクソンが、亡くなる数日前まで行っていたコンサート・リハを収録したドキュメンタリー映画。久々に感動しました。

「This is it」は「これで決まりだ」「これがそうだよ」と訳せばよいでしょうか。彼は映像の中で、歌い踊り、躍動しています。生に満ち溢れています。全身全霊で表現すること、生きること、愛すること...それがMの「This is it」なのだと思います。

さて、神戸フリースクール「This is it」ってなんでしょうね？他とは違う、ここで見つからない何か、を私たちは上手く表現し、提供できているのでしょうか。子どもたちの底知れぬパワー、スタッフの情熱、ちゃんと伝わって

ますか？

誰もが「居心地いいね」と言っ

てどんどん元気になっていく・・・そんな場所をして

「This is it」です！

海外逃亡

くに

私の不登校体験は遅ればせながら大学入学後。勤務学生だった私は片道2時間の通学と学費捻出の為にバイトで疲れ果てていま

た。そして何より思い描いていたキャンパスライフと現実とのギャップに心碎けてしまい、とうとう通学途中にお腹が痛くなつて途中下車するように。それから次第に大学から足が遠のき、バイトばかりの生活になつていました。そして翌年大学を休学し海外逃亡!?をはかりました。前から夢見ていたワーキングホリデーです。巨大リユック一つとシュノーケリングセットを持ってオーストラリアを1周。極貧だったけど、毎晩仲間とお酒を飲んだり、スキューバをしたり盲導犬訓練センターに飛び込みでボランティアに行ったり、振り返れば貴重な1年でした。帰国した私は自分の境遇に感謝することができるようになり、充実した大学生活を送る事になりました。人生っておもしろいものです

(笑)

